

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- 「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にし履修を行って下さい。
- とくに、プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- 「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それをはるかに上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- 各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたりベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

現代ポップカルチャープログラム

履修のしかた

現代ポップカルチャープログラムはマイナー限定プログラムです。ポップカルチャーは学問分野ではなく、フィールドと言えます。必ず他のメジャー・学問の履修を優先し、そこで学んだ知見・方法論をポップカルチャーに応用する視点を持ちましょう。

全ての科目は2年次から履修できます。選択必修科目を優先して履修してください。

他のプログラムとの関係

特に関連性の強いプログラム: 哲学プログラム、文化人類学プログラム、社会学プログラム、科学コミュニケーションプログラム、情報学プログラム、メディア・ジャーナリズムプログラム、ジェンダープログラム

留学・教職その他

・留学について: 短期・長期を問わず、留学を経験し、多様な言語や価値観に触れることを強く勧めます。

・関連する専攻演習では、論集を発行しています。また定期的に図書館で企画を実施しています。

学生へのメッセージ

現代ポップカルチャープログラムは、現代文化の構造と背景を深く理解し、主体的に関わるための手伝いをします。本プログラムはマイナーとして設計されており、皆さんが他の専門分野(メジャー)と掛け合わせ、そこで学んだ方法論をポップカルチャーの研究に活かすことを期待しています。

本プログラムが求める学生像

・自分の「好き」という感覚を超えて、「その好きに普遍的な価値があるか」「その背景は何か」「歴史的な背景はどうなっているか」という構造的な問いを見出し、探求したい人。

・誰も気づいていないような社会的な課題を見つけ、追求できる人。

本プログラムは、他のメジャー分野の専門性を補完するために運営しています。現代ポップカルチャーをマイナーとして履修し、学際的な視点と統合的な分析スキルを身につけ、様々な分野で活躍したい方を歓迎します。

現代ポップカルチャープログラム

現代ポップカルチャーは、単一の学問分野の枠には収まらない統合領域(フィールド)です。本プログラムは、哲学、社会学、文化人類学、メディア論、芸術学、歴史学など、複数の学問分野の方法論を統合し、現代文化の諸現象を分析・批評する力を育成します。

この履修モデルは、現代ポップカルチャープログラムをマイナーとして履修する学生を対象とし、「方法・理論」と「トピックス」の2つの柱を通じて、段階的な学習を推奨します。推奨科目は、プログラムの選択必修科目として設定されています。

「方法・理論」ではこのカテゴリーは、現代ポップカルチャーを学術的に探究するための基礎を築きます。「トピックス」では、「方法・理論」で習得した知識と手法を、現代社会を取り巻く具体的な現象やフィールドに応用し、実践的な分析を行うことを目的とします。

現代ポップカルチャープログラム科目

Level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
方法・理論				○	表象文化論		○	哲学の諸問題				
				○	美学・芸術論							
トピックス					日本芸術論			メディアとジェンダー				
					コミュニティ・アート							
					科学技術コミュニケーション論B							
					メディア特講(現代マンガ・アニメ考)							
					メディア特講(若者とメディアリテラシー)							
					文化社会学A							
					現代文学特論							
					現代文学の世界							

その他の推奨科目 ※[]内は単位数